

銅賞

文学部 日本文学科 4 年

昆野千咲さん

『江戸川乱歩短篇集』／江戸川乱歩著／岩波書店

満員の通勤電車、隣に立つ人の腕が触れる。その感触はきっと、誰しも経験したことがあるだろう。何となくおさまりが悪いが移動しようにも逃げ場は無い。席にかける人を恨めしく思いながらも、電車はスピードを増して進んでいく。しかし、その座席も完璧に安全ではないかもしれない。

江戸川乱歩の「人間椅子」は、女性作家のもとに届いた一通の手紙から始まる。それを作家と共に読み進める読者は、ページを捲るごとに背筋を伝う怪しい気配に眉を顰め、結末に辿り着けばきっと、腰掛けているその椅子から跳ねるように立ち上がるだろう。

乱歩の描く作品は探偵小説のイメージが強く、徐々に真相が明らかになっていくこの作品は、探偵小説と共通するものがある。この世界には知らない方がいい真実も存在するが、それさえも眼前につきつけられたいと願うのが人間の性だろう。人がもつ「すべてを知りたい」という欲求をあらわにさせる。本作にはそんな力が宿っている。